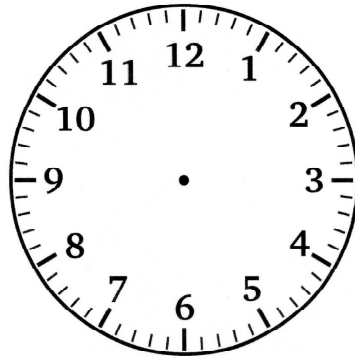


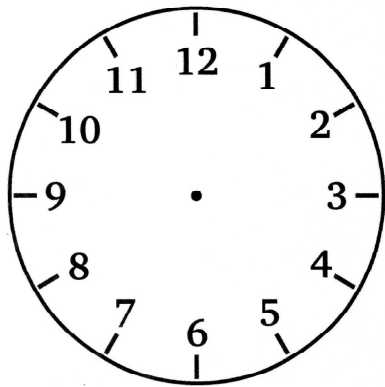
単針ペア時計（動く「時（じ）計」と「分（ぶん）計」）を作ろう！

2025.8.18 算数工房

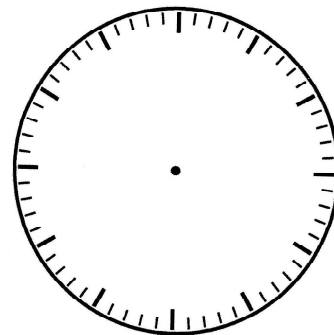
時計を読むことの難しさは、本来別々にあるべき短針用の文字盤と長針用の文字盤が、1つの文字盤で共用されているところにあります。



この時計を分解すると



短針用文字盤



長針用文字盤

短針の方には数字が書かれています。ところが長針の方は、目盛りはあるものの数字は何もありません。これではふり仮名の打たれていない難しい漢字を「読みなさい」と言われているようなものです。

そこで、短針（時の）時計と長針（分の）時計の教具（大型&ミニ）作りを算数工房（教具作り①）に公開してきました。当時、実際に動く短針（時の）時計を作ったのですが、長針（分の）時計はなぜか作りませんでした。短針（時の）時計は長針を取るだけで出来るのですが、長針（分の）時計の方は、文字盤を付け替えずに単に針を取っただけでは意味が無いと思ったからかもしれません。

このままでは中途半端なので、実際に動く長針（分も）時計を作ってみました。

材料の時計の調達ですが、残念ながらダイソーには100円の時計はありませんでした。（220円）



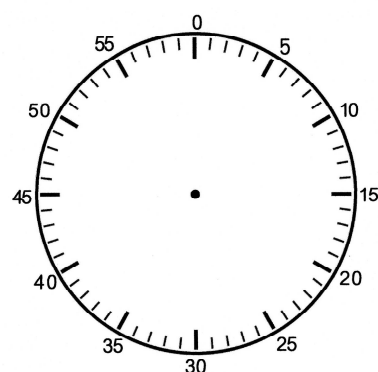
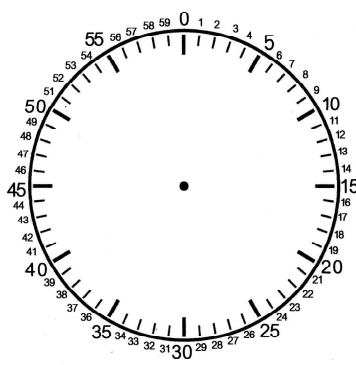
それぞれ
秒針、長針、短針を
取ると。



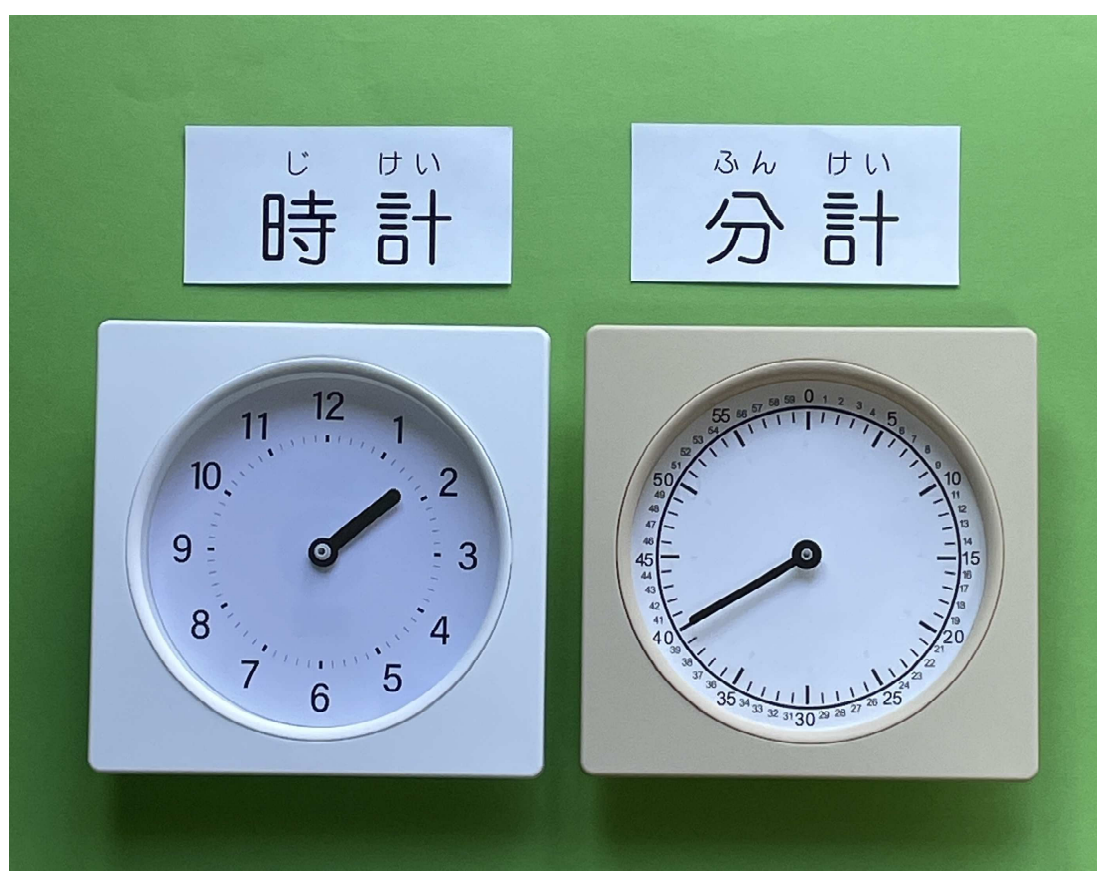
この時計の文字盤の直径は約12cmでした。少し小さめに切り取ってすでにある文字盤の上に乗せました。

最初は1分刻みの方にしておいて、そのうちに5分刻みに替えればいいのかではないでしょうか。

「単針ペア時計」と名付けました。



この時計では小さいですが、もっと大きなペア時計を作って教室の壁に掛けるというのはどうでしょう。子どもたちに「長い針が5のところきたら〇〇ね」という言い方をすることがありますが、数字付き文字盤の分(ふん)計であれば、「25分までね!」と指示することもできるような気がします。



時計の分解方法は、時計によって様々ですが、この時計の場合には、ガラスを押さえている丸い輪についている4つの爪が、裏でカチッと固定されているだけなので、簡単にはずすことが出来ました。そのあとは、秒針、長針、短針を上向けに引き抜いてはずせばOKです。時(じ)計は、秒針と長針をはずせば完成です。分計は、秒針、長針、短針を一度すべてはずし、長針用文字盤を上から重ねて、再度長針だけを付ければ完成です。

単針ペア時計を作ってみませんか!

※この時計では、教室には小さすぎます。枠を取っ払って大きな文字盤に交換すれば大型が完成すると思いますが、それは需要があった時までおいておくことにします。

〈おわり〉

